

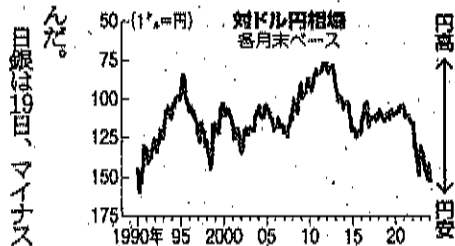
円安 34年ぶり水準

緩和継続の観測 151円97銭

27日の東京外国為替市場で円相場が一時、1ドル115.1円97銭まで下落し、1990年以來約34年ぶりの円安ドル高水準をつけた。日本銀行は

「異次元緩和」から転換したものの、強力な緩和は続ける姿勢を示しており、円が売られている。政府は円安の動きを強く抑制し、市場では為替介入

入への警戒感が高まっている。▼7面1口先介入。円相場は今年初め、1ドル114.0円台だった。日米の金融政策の違いを背景に10円超も円安が進



金利政策を解除するなど異次元緩和からの転換を決めた。ただ、急速な利上げには慎重な姿勢を示し、緩和的な環境が続くと観測。超低金利が当面は続くとの受け止めから、円安が進んでいる。

27日午前には、利上げに積極的とみられていた日銀の田村直樹審議委員が青森市内で講演し、「ゆっくりと金融政策の正常化を進める」などと語った。早期利上げに慎重だと市場は受け止め、円安が一段と加速。2022年10月につけた安値（151円94銭）を突破した。

一方、米連邦準備制度理事会（FED）は利下げに移行する見通したが、物価が高止まりし、利下げが先送りされるとの見方が強まる。日米の金利差は大きくは縮まらないとの観測から、低金利が見込まれる円が売られ、ドルが買われている。

円安は輸入品の価格を押し上げ、家計にマイナスの影響を与える側面がある。政府は市場への牽制を一段と強めている。鈴木俊一財務相は同日正午すぎ、「行き過ぎた動きにはあらゆるオプション（選択肢）を排除せず、断固たる措置をとっていきたい」と発言。同日夕には、財務省と金融庁、日銀の幹部が緊急

会合を開催した。

市場では円買いドル売りの為替介入がありうるとの警戒感も出て、円相場は同日夕にかけて151円台前半へとやや円高に戻した。27日の東京株式市場では、円安の恩恵が大きい輸出関連を中心に幅広い銘柄が買われ、日経平均株価が反発。前日比3.64円70銭（0.90%）高い4万0762円73銭で終えた。（文藝春秋）